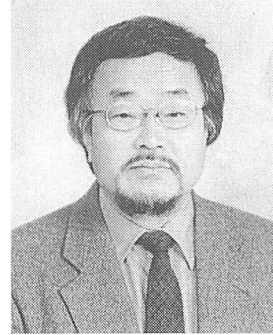


## 「副会長あいさつ」

副会長 西川 肇

「海岸林学会誌」第2巻発行にあたって、会員の皆様に一言ごあいさつ申し上げますとともに、将来に向かって本学会が益々活発になることを期待したいと思います。私は挨拶の場をお借りて日頃進めております人工衛星リモートセンシング技術を通じた、土木工学的な視点にたった海岸林の研究について申し述べたいと思います。



その一つは、津波や高潮に対する海岸林と土木構造物の相互補間による防災の研究です。従来、海岸林前部に構築されたコンクリート製防潮堤による林縁部への潮風害などが懸念されてきました。しかし、東海地震による津波災害の懸念が迫ってきている今日海岸林の整備だけで対処するのではなく、海岸林の景観や海岸林の防災機能を考慮しながら土木構造物を組み合わせ、海岸の環境を守る新たな手法についての検討が必要になってくるのではないかと思います。この観点から沼津市千本松原の防潮堤が松林に及ぼす潮風の影響を調べており、これには衛星が有効と考えております。

もう一つは、これまで実態があまり良く分からなかった東南アジアなど南方の海岸林に関する植生環境評価です。中国や東南アジア諸国における沿岸部の積極的な開発などによる海岸林への影響が懸念されます。これについては、海岸林を取り巻く土地利用環境との相関分析が必要になってくるのではないかと考えています。

地球観測衛星による地被状況の探査は、物体から反射または放射してくる電磁波の分光反射特性という科学的根拠に基づいて行われており、衛星データから必要とする情報はコンピュータを利用した画像解析によって定量的に抽出されます。さらに、観測開始以来蓄積された時系列データによる環境変動の解析が可能になってきました。

このような先端的な技術が容易に利用できるようになって、海岸林の密度管理、潮風害および病虫害などの生育状況が詳細に評価に利用できるようになってきてきました。しかし、衛星データによる地球探査は万能的な技術ではなく、地上での調査データとの検証作業が不可欠です。特に、植生調査には植物専門家の協力がなくては成り立ちません。土木技術者が沿岸域の防災問題において海岸林について関与する場が増えてくると思われます。海岸林学会会員諸氏のお力添えを切にお願い申し上げます。

日本大学生産工学部 土木工学科 教授